



## 子どもの笑顔ってすばらしい！

病気で長く入院している子どもたちにクラウン芸や人形劇などの舞台芸術を届けることができた事業です。本当にステキな笑顔にたくさん出会い、看病に付き添っている保護者の方や病院のスタッフの方からそれぞれの感動の言葉をいただきました。

期待や不安、いろいろな想いを胸に集まってくれた子どもたちの顔が、出演者の声かけにほころび、一瞬にしてここが病院であることを忘れてしまうような笑顔になりました。体をよじらせながら大きな声で笑ったり、いきいきと演者とのやりとりを楽しんだり、隣の子や保護者と顔を見合わせて微笑んだりする子どもたちの姿、そこには魔法をかけられたようなキラキラとした世界が出現しました。普段は見られないという子どもたちの表情に、日常をサポートしているドクターや看護師にも笑みがあふれました。保護者にとっても癒しの空間のひとつとなり、「笑っている子どもを見ていると勇気が出た、明日への希望がわいた。」という声もありました。子どもたちの笑顔は、保護者や病院関係スタッフなどの共感呼び、互いの信頼関係をより強める力となり、その場にいるみんなの気持ちが1つになったと感じました。

入院というつらい治療の単調ともいえる日常の中で、小児病棟から一步も出られない子どもたちも多く、入退院を繰り返している子ども、中には、生まれてからずっと病院の中にいるという子どももいます。そのような生活の中に外の風を運んで来て、子どもたちの心を瞬時につかむ、舞台芸術ならではの体験と演者とのコミュニケーションが、ワクワクドキドキと心を弾ませ、前向きな感情を呼び覚まします。それは、生きる力となります。

子どもからも保護者や病院関係のスタッフからも「また来てください。」という声をたくさんいただき、継続的な病院のニーズも多くあることもわかりました。次代を担う子どもたちが、どのような状況に置かれていても子どもらしく成長していくために、地域や社会がやるべき事業の一つとして、この事業を広く知らせ続けて実施していく必要性があります。